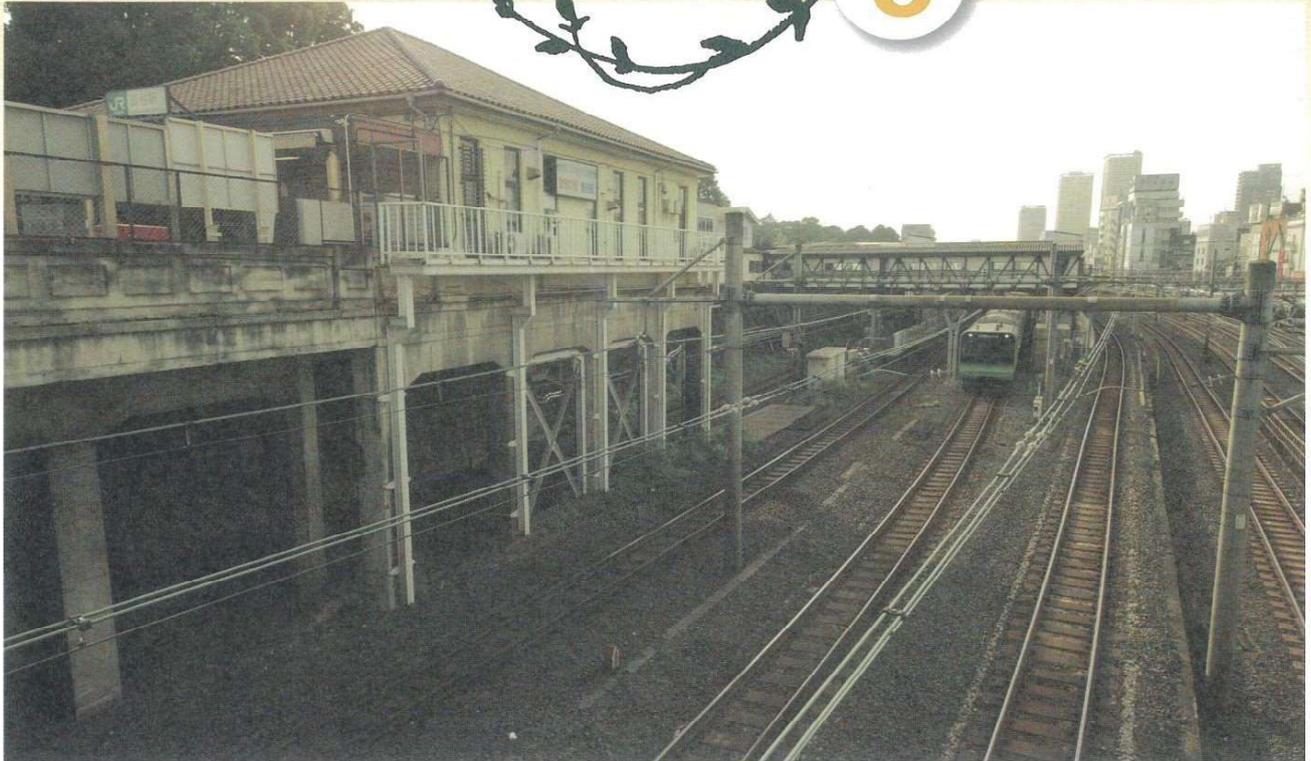


〒110-0012 東京都台東区竜泉 1-20-19
 発行所 真宗 佛光寺派 西徳寺
 TEL 03-3875-3351 FAX 03-3875-6796
 発行人 山崎 哲
 編集長 仲井 真裕
 印刷 大進ラベル印刷(株) 03-3787-3621



大悲に生きる人とあう
 願いに生きる人となる



鶯谷駅(台東区)

西徳寺の予定

8月

9日(水) 午後7時 燈虹塾セミナー
 13日(日)～16日(水) 盂蘭盆会
 29日(火) 午後1時 独歩会布教大会 場所:西徳寺本堂



9月

1日(金) 評議員会役員会
 2日(土) 午後4時 黒森神楽・西徳寺公演
 6日(水) 燈虹塾セミナー
 7日(木) 午後2時 総代会
 9日(土) 午後5時半 同行会『観衆偈』に聞く
 法話:大橋 伊知郎
 13日(水) 午後1時半 婦人会聞法会
 16日(土) 午後2時 定例聞法会
 20日(水)～26日(火) 秋季彼岸会
 22日(金) 午後1時半 秋季永代経法要



※予定は変更することがあります。
 詳しくは寺務所までお問合せください。

顧問の一言

うらぼん 盂蘭盆

最近「うらぼん」という言葉が聞か
 れなくなりましたが、正式には梵語で
 「ウランバナ」と云います。「倒懸^{とうけん}」と訳
 され、逆さ吊りの苦しみという意味で
 す。亡き人が地獄に落ちて苦しんでい
 るところを供養して救い上げた
 『盂蘭盆経^{うらぼんぎょう}』に説かれていることから、
 「うらぼん」という
 言葉が生まれました。今では、「うら
 が省略され「盆」と
 いう言葉になって
 きました。(東京で
 は7月にお盆を迎
 えられることが多
 いです)



8月の山門の言葉



身の衰えは 人間の成長でもある

六月から膝が痛みだし、一ヶ月経っても良くならぬのでMRIを撮った結果「半月板損傷」という診断を受けた。小さい頃から身体を動かすことが好きだったが故に、正直シヨックは大きい。

歳を取れば誰であつても病氣や怪我をするのは当たり前かもしれないが、やはり元気な時の自分と現状とを比べ、「あの時は良かった」、「あの頃よりは良くなった」と、一喜一憂しているのが私たちではないだろうか。

お釈迦さまは、私たちの「いのち」の中身は、「生老病死」であると明らかにされた。またそれは、私たちにとって「苦」であるとも説かれ、どれも私の思い通りにならないということ「苦」と言い表してください。

人として生を受け、老・病・死するということは、誰でも頭では分かっているが、やはり、どれも自分の思い通りにはならず、老いを感じ病氣を患った時には受け入れ難い事実として苦悩する。

しかしながら、老いや病氣、又は怪我に悩まされることを縁として、新しく開かれる眼があると感じる。老いるという中には、その歳まで生かされてきた有り難さを感じられ、また、病氣や怪我を患えば、色々な方に支えられていたことに気づかされる。

それぞれが苦悩しながらも、「他への目覚め」という形で、苦悩を超えていける道が開かれているのではないだろうか。

その道に立たしめられ、その道を歩む者となること、人間としての成長であり、新たな眼が開かれたことではないかと感ずる。

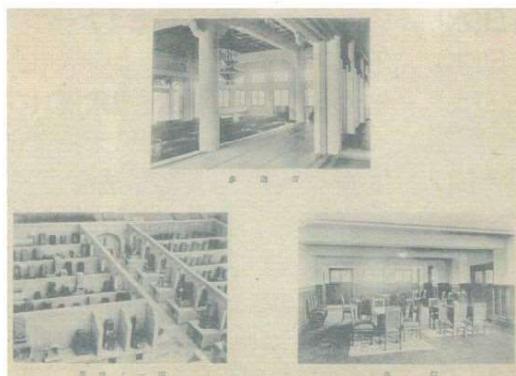
(大橋 伊知郎記)

西徳寺本堂の歩みと現状

昭和5年に完工した西徳寺本堂。毎日新聞社刊行の「昭和史全記録1926～1989」に、「昭和5年(1930年)8月 下谷仏光寺コンクリート2階建本堂、アパート式納骨堂新築」という記事が掲載されている。やはり鉄筋コンクリートの本堂が注目されていたことが伺える。

当時、1階には書院があり待合室として使われていたが、昭和20年の東京大空襲ではここに逃げ込み、助かった方々がいた。

10年ほど前、1人のお爺さんがお寺に来られた。そして、当時お婆ちゃんに手を引かれて避難して助かったことを教えたくれた。どうしても生きていた間に一言その時のお礼をお伝えしたいと来られた。お婆ちゃんは鉄筋コンクリート造と知っておられたのか、それともお寺だから避難されたのか分からないが、先人の「燃えない・倒れない」という願いが叶っていたことに驚かされた。



うばだいしゃ ~共悩共歩~ テーマ「時代」

優婆提舎(うばだいしゃ)論議の意。
経説等について仏や仏弟子が論議して意味を明らかにしたもの。
(例:浄土論=無量寿経優婆提舎願生偈)

今回は漆の良さを「経年で味や艶が出てきます。例えば黒色であれば黒の深み、朱色であれば赤みが強くなったりします。今は使い捨ての時代ですけれどね。」と語る、漆器工を営まれる高山健一さんにお話を伺いました。

◆仕事場が遊び場

漆器工は祖父の代から営み、今は十七歳の兄とやっています。昔は座卓や机等を手掛けていましたが、和室の減少とともに今は、神社の神具やお寺の仏具を中心に扱っています。地方では磨きや塗り等それぞれの職人が分業で行っている所が多いですが、うちでは全ての工程を自分たちが行っています。

仕事を始めて二十三年になりますが、小さい頃から仕事場で遊んでいて、漆をいじり全身かぶれたりしてました。怒られもしなかったので自然にこの世界に入っていました。

◆道具

仕事は見て覚えました。いろいろな言葉でも、最後は自分の感覚なんです。道具も自分で作ります。檜の板(写真※)を切り出してカンナで削って作ります。角度や堅さもそれぞれで、私は堅めが好きです。道具も最初は上手く作れなかつたです。他の職人が帰った後、その人の道具を見たり触ったりします。自分で道具がちゃんと作れないと、仕事のスピードも上がらないんです。

最初は当然失敗ばかりでした。だから忙しい時はやらしてもらえなかつたです(笑)。でも、この仕事は素質よりもやる気だと思えます。次はより良くという試行

錯誤が大切なんです。

◆進学

実は高校を卒業して仕事を始めたのですが、大学にも入り経済学部に進みました。最初は経理の仕事が出来れば手助けになると考えていました。職人と両方を兼ねようと思っていました。なぜ両方やるうと思っただのか、考えが甘かつたです(笑)。

◆聞いてくれた人

昔は否定されることが多かつたように思います。悔しい思いをよくしました。そんなとき「なにクソ」という精神で続けてきました。今思えばよく辞めなかつたと思う時があります。小さい頃から見ているので、自分も出来ると思っていました。でも容易ではなく、毎日が挫折でした。思い通りに進まない現実とのギャップが、自分自身で埋められなくてキツいときがありました。

その時は今は亡き母親が何を言う訳でもなく、「うん、うん」と聞いてくれました。その存在は大きかつた。愚痴の対象が兄であつても受け止めてくれました。

◆失敗こそ経験

自分一人では煮詰まつて、乗り越えられなかつたと思います。失敗ばかりして迷惑ばかり掛けるわけですから、「俺はここに居ていいのか?」とも考えました。でも周りは、最初から出来るはずがないという意味で期待していません。ただ日本人は失敗したくないの一心なんですよ。

今になればその数々の失敗が経験となつて、様々な状況に対応出来るようになった。失敗は無駄ではないんですよ。これまでの失敗が、逆に今の余裕になつています。失敗が生きてます。

改めてこの仕事は、小さいことをコツコツと積み重ねていくなかで、発想していくことが大切だと思います。またやる気があれば発想が自然に湧いてくるんです。とても楽しいです。
(聞き手 山崎 哲)



高山健一さん



※檜の板



城東ブロック会 総会・聞法会報告

6月25日(日) 城東ブロック会総会・聞法会が人形町香港美食園にて開催されました。加藤会長よりご挨拶をいただき、今年から西徳寺で勤務している深澤見弥君からもご挨拶をいただきました。

大谷最高顧問からは、お釈迦様の伝説をもとに、人間が必ず陥る生老病死^{しょうろうびやうし}についてお話をいただきました。どれも苦だと教わります。死ぬこと、病にかかることは分かるけれども生きることも苦だというのが頷けないと、一同と共に悩んだ時間でありました。

次回は10月8日(日)に聞法会を開催する予定です。
(高橋 淳 記)



燈虹塾 演奏会報告

邦楽には吉原が舞台になっている歌詞が、数多く存在します。「実際にその場所に訪ねてみよう」と、散策・演奏会を企画しておりましたが、熱中症を鑑みて泣く泣く断念。その代わりに、7月9日(日)に西徳寺会館にて、演奏会のみで開催となりました。

しかしながら、写真の通り大盛況!望月太左衛門理事と青木繁弘理事の絶妙な掛け合いも相まって、大変楽しい時間となりました。お越しいただいた皆様、演奏いただきました糸好会の皆様、この度は暑い中、誠にありがとうございました。

(燈虹塾事務局 高橋 記)



参加者の皆さんも、とても楽しそうです



演奏会の様子



千束幼稚園 夕涼み会報告

7月19日(水)、千束幼稚園の「夕涼み会」が催されました。今年は花火の他に、ビーチボールのスイカ割りイベントも加わり、昨年以上に大盛況でした。

コロナ禍で行事がなくなってしまった園児の為に…と始まった会ですが、今後も毎年お手伝いさせていただければ嬉しいです。
(坊守 山崎 晴美 記)



スイカ割り(ビーチボール)



吹上花火

過去帳について

過去帳—寺院で檀家・信徒の死者の法名・俗名及び死亡年月日などを記し置く帳簿。(広辞苑参照) 法名：仏弟子となる身に与えられる名

位牌—死者の戒名を記した木牌。(広辞苑参照) 戒名：戒を受け、修行する身に与えられる名

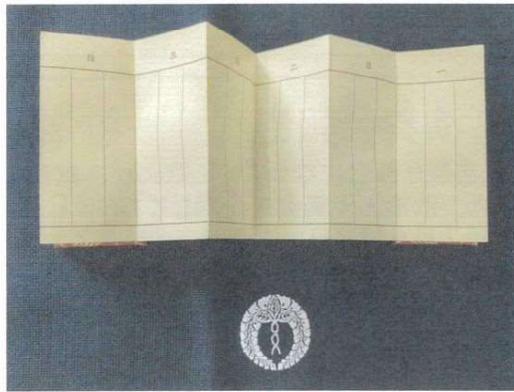
真宗では一般的に位牌ではなく過去帳(もしくは法名軸)を用います。

位牌は中国の儒教が発祥だと言われています。故人の魂を閉じ込めるための依り代として位牌(元は木簡といわれる板)が用いられました。中国より日本へ仏教が伝わる際一緒に伝わり、儒教の影響を受けた禅宗が位牌を使用するようになったのが、今日まで伝わっているのです。(諸説あり)

そもそも仏教には靈魂とか魂という考えはありません。亡くなった方は全て私たちを仏道へ導く教えとなるといわれます。故人の命日をご縁として私に与えられたいのちを問う、それが過去帳の大切な役目ではないでしょうか。



西徳寺で扱っています



1日～31日の日付ごとに記帳します

ランドマーク 鶯谷駅



鶯谷駅北口

江戸時代の初期、寛永寺の門主がこの地にウグイスを放ったのが、鶯谷の由来とされています。周囲のウグイスが美声であれば、その声を真似て美しく鳴くようになるとされ、ウグイスの鳴き声をよくするために、京都のウグイスがこの辺りに放鳥されたそうです。

令和4年(2022年)度の1日平均乗車人員は、山手線の駅の中では高輪ゲートウェイ駅に次いで少なく、高輪ゲートウェイ駅の開業前は、長く山手線の駅で最少でした。

乗客数が少ない背景のひとつに、中・低層住宅が多く、高層住宅があまり見られないことがあります。東京大空襲の被害を免れた、大正時代末期～昭和初期の町家が点在し、その建物を守っている人がいるからなのです。

歓楽街のイメージが強い鶯谷駅ですが、もともとは上野駅に近い立地ということで、集団就職や出稼ぎで上京してきた人々への低価格旅館がルーツのようです。

西徳寺にいらっしゃる際に、鶯谷駅の南口からタクシーに乗られる方が多いかもしれません。

「二代墓地」、各種墓地、受付中。墓石への法名刻みはお問い合わせください。



坊さんのツブヤッター



@じゅんえん

実は電車に乗るのが好きです。この間は千葉県佐倉市の街を走る、山万ユーカリが丘線に行ってきました。詳しいことは省きますがこれは日本でもかなり珍しい!もう乗るしかない!ということで満喫してきました。グローバル化による脱個性化が進む今日だからこそ、私鉄ローカル線に目が離せません!
#路線図も個性的 #次は千葉都市モノレールに乗りたい #撮影はよく分かりません



えこお志お礼

千葉県 渡邊 茂 様
武蔵野市 井手 しのぶ 様



ご浄財を頂戴いたしましてありがとうございます。
ご芳名の掲載をもってお礼とさせていただきます。



内愚外賢

～賢者の信を聞きて、愚禿が心を顕す～

今月号の『えこお』に、8月29日(火)午後1時から開催する「どくぶかい独歩会布教大会」のお知らせを同封いたしました。
3年前まで、第11次間法運動推進員養成研修会で、5年間共に学んだ仲間が、「独歩会」という名前をいただき、仲間のお寺で年に1度、学びを確認し合う場を設けております。
予定では、西徳寺とご縁の深い2人の布教使に法話をいただきます。テーマは『歎異抄』、会費もありませんので、どうぞお気軽にご参加ください。



娘が七夕に作ってくれました

(編集長 仲井 真裕 記)

えこおに対するご意見・ご感想、お待ちしております。

✉ saitokuji@ce.wakwak.com
🌐 <http://saitokuji.tobihiro.jp/>



ホームページ

ゆうちょ銀行お振り込み口座
00120-0-80670 名義 西徳寺



Facebook